

# 大学の動きを知る

## —KyotoU News—

京都大学では、学生支援・社会連携・産官学連携・国際連携、また、卒業生の活躍の表彰、創立125周年記念事業等、各種取組を推進しています。京都大学Webサイトの「KyotoU News」では、これらのトピックスを紹介しています。

※ 所属・職名については、行事開催時点もしくは発表時点のものです。

[www.kyoto-u.ac.jp/ja/news](http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/news)

### 創立記念日に「京都大学創立125周年記念行事」を実施しました

京都大学創立125周年の2022年、創立記念日である6月18日と翌19日の両日、ロームシアター京都にて記念行事を開催しました。

来賓、招待者を迎えての記念式典を挙行し、続く記念フォーラムでは本学に関わるノーベル賞受賞者11名とフィールズ賞受賞者2名が映像で紹介されたのち、「真理の探究と地球規模の課題解決」を統一テーマに、ノーベル賞受賞者の野依良治氏、小林誠氏、山中伸弥 iPS細胞研究所名誉所長・教授、本庶佑 高等研究院副院長・特別教授、吉野彰氏、利根川進氏による講演、ビデオメッセージがありました。また、湊長博 総長をファシリテーターとして受賞者4名とパネルディスカッションを行い、若い世代にエールを送りました。フォーラムには本学学生や全国の高校生も含めて約1,000名を招待し、ライブ配信でも多くの方が視聴されました。



創立125周年記念フォーラム ノーベル賞受賞者パネルディスカッション

### 「京都大学創立125周年秋の記念行事」を開催しました



記念行事のフィナーレを飾ったプロジェクションマッピング

い、京都大学の歴史を振り返りながら、125周年を一つの通過点としたこれから先の京都大学の輝きを描いたストーリーが「青龍」が進化しながら未来へ進んでいく様子とともに鮮やかに投影され、多くの観衆の目をくぎ付けにし、創立125周年記念行事のフィナーレを飾りました。

2022年11月5日にホームカミングデイに併催し、百周年時計台記念館において秋の記念行事を開催しました。

本学卒業生のプロミュージシャン山中一毅氏率いるKazuki Yamanaka Special Quartetによる京都大学ホームカミングデイジャズコンサートに続き、午後には本学卒業生で小説家の平野啓一郎氏、京都大学CFプロジェクト (Create the Future Project) 等に多大なご支援をいただいている建築家の安藤忠雄氏による講演のほか、本学卒業生で俳優の辰巳琢郎氏、湊長博 総長を加えた4名で、「社会が求める人材像について～本学卒業生としての期待、本学支援者としての期待～」をテーマにパネルディスカッションを行いました。特別シンポジウムも開催し、一般市民など約500名の参加者が集いました。

夜には、プロジェクションマッピングを百周年時計台記念館東側の総合研究13号館にて実施しました。吉田キャンパスが位置する京都の東の守り神である「青龍」をストーリーテラーとして用

### ウクライナ学生の受入れを開始しました

本学では、ウクライナの危機的状況が続くなかで、本学の学術交流協定校である、キーウ工科大学およびタラス・シェフチェンコ記念キーウ国立大学からの学生受入れを表明し、昨年度末までに18名の受入れを決定し、このうち15名が来日しました。2022年10月26日には、ウクライナ学生の歓迎セレモニーを百周年時計台記念館にて実施しました。湊長博 総長、稲垣恭子 理事・副学長らが出席し、学生たちにエールを送りました。本学で受け入れたウクライナ学生に対しては、本学の「ウクライナ危機支援基金」に多方面から多くのご協力をいただいたことにより、日本への渡航費用だけでなく毎月の生活費支援の実施が可能となりました。学内でのサポートにも力を入れており、今後も学生が安心して本学での学修を継続できるように支援を行います。



歓迎セレモニーの様子

### 第1回京都大学北米On-site Laboratory 合同シンポジウム: Transformative Innovations in Medical and Life Sciencesを開催しました



シンポジウム会場での集合写真

海外の大学や研究機関と共同で設置している現地運営型研究室「On-site Laboratory」のうち、北米を拠点とする京都大学サンディエゴ研究施設、グラッドストーン研究所iPS細胞研究拠点、量子ナノ医療研究センターの3ラボと国際戦略本部は、2023年2月28日に米国・サンディエゴでシンポジウムを開催しました。本学から湊長博 総長、カリフォルニア大学サンディエゴ校からCorinne Peek-Asa 副学長、John M. Carethers 副学長が参加したほか、オンライン参加者も含めて学生、研究者、政府関係者、企業関係者など13か国から736名の参加登録がありました。山中伸弥 iPS細胞研究所名誉所長、斎藤通紀 高等研究院ヒト生物学高等研究拠点長による基調講演をはじめ、日米の研究者8名による医療・ライフサイエンス分野の卓越した最先端研究の成果発表が行われ、参加者から熱心な質問が寄せられるとともに分野を越えた活発な議論が行われました。

### JCRファーマ株式会社から「本庶佑有志基金」および「がん免疫治療研究基金」へ第三者割当による自己株式処分での寄附を受けました

JCRファーマ株式会社(以下、JCRファーマ)と本学との間で、本学に設置された「本庶佑有志基金」および「がん免疫治療研究基金」に対する第三者割当による自己株式処分での寄附について合意され、本学が同社の株100万株を取得したことについて、2022年12月5日に記者発表を行いました。今回のご寄附に際し、湊長博 総長からは、芦田信 JCRファーマ代表取締役会長兼社長の本学の活動に対する深いご理解と格段のご支援に対して、お礼が述べられ、感謝状を贈呈しました。本庶佑 医学研究科附属がん免疫総合研究センター長・高等研究院特別教授からは、今回のご寄附に対してのお礼が述べられるとともに、今回のご寄附が大学と企業との新しい協力体制のひとつであること、また、本学が株式を保有し、その株式の配当金を受け取ることで継続的かつ安定的な資金を得ることができ、長期にわたる若手研究者育成やがん免疫研究発展への支援が可能となることなどが述べられました。



感謝状贈呈後の記念写真(左から芦田JCRファーマ代表取締役会長兼社長、本庶特別教授、湊総長)

## ベルギー王国のアストリッド王女殿下ご一行が来学されました



清風荘での集合写真

2022年12月9日、ベルギー王国のアストリッド王女殿下が来学し、湊長博 総長、稲垣恭子 理事・副学長、横山美夏 理事補・欧州拠点所長と懇談しました。懇談の場となった清風荘は、第一次世界大戦により焼失したルーヴェン大学図書館の再建とともに和書の寄贈に尽力した西園寺公望の別邸です。このゆかりの地でベルギーとの友好関係の重要性をあらためて確認しました。この前日には、ベルギー有数の大学であるルーヴェン・カトリック大学長と稲垣理事・副学長が両校の交流について懇談を行いました。さらに、2023年4月17日には同大学副学長らが来学され両校の研究連携に関する意見交換が行われるなど、今後の学術交流のさらなる発展につながる機会となりました。

## 医学部附属病院における脳死ドナーからの肝小腸同時移植手術の実施を報告しました

医学部附属病院は、2022年8月に、脳死ドナーからの肝小腸同時移植手術を実施しました。今回の同一脳死ドナーからの肝小腸同時移植は、本邦で初めてです。小腸移植は世界的に見ても成績が良いとはいえ、成績向上のために様々な改良を重ねてきましたが、未だに肝移植成績などと比較すると十分とはいえません。脳死ドナーからの臓器移植が多数を占める北米からの報告では、同一ドナーからの肝臓及び小腸の同時移植は、小腸単独移植と比べて術後成績が良好であることが報告されています。

今回、臓器を提供していただいたドナー様及びドナーご家族様の尊い善意のもと、肝小腸同時移植を実施することができ、患者さんの術後経過は安定した良好なものとなりました。今回の肝小腸同時移植の成功によって、臓器移植医療が、より信頼のおける治療選択肢となることを期待しています。



チームを率いた波多野教授

## 京都大学が代表機関を務める「ゼロカーボンバイオ産業創出による資源循環共創拠点」がJSTの共創の場形成支援プログラム(COI-NEXT)地域共創分野・本格型に採択されました



沼田圭司教授(工学研究科)が代表を務めるこの拠点の活動が、国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)の共創の場形成支援プログラム(COI-NEXT)の地域共創分野・本格型に移行することが決まりました。令和3年度に同拠点の提案が地域共創・育成型に採択されてから、地域の方々の課題をお聞きし、拠点ビジョンの練り直しに取り組んできました。育成型期間中は、ゼロカーボンの農業、水産業、ものづくりに資するプロジェクトの検討と試行的な研究開発を進めてきましたが、本格型移行後はこれらに加えて、ゼロカーボン林産業にも取り組みます。今後は、令和5年度より最長10年間の長期プロジェクトを進めて参りますが、引き続き地域の方々とコミュニケーションを密に図りながら、拠点参画機関が協力して研究開発を進めて参ります。

## 山下真由子数理解析研究所助教が第1回羽ばたく女性研究者(マリア・スクウォドフスカ=キュリー賞)を受賞しました

この賞は、国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)と駐日ポーランド共和国大使館が、日本の女性研究者のより一層の活躍推進に貢献することを目的に、国際的に活躍が期待される若手女性研究者を表彰するため創設されました。

山下真由子助教(現・理学研究科准教授)は、非可換幾何学を専門とし、数学のみならず物理学との境界における場の理論の研究をしています。圧倒的に学術的プレゼンスが秀でており、数学での大きな国際会議のプレナリー講演に招待されるなど、すでに世界的にもその実力が高く評価されていることから今回の受賞となりました。



## 堀毛悟史高等研究院准教授が日本学士院学術奨励賞を受賞しました



本賞は、優れた研究成果をあげ、今後の活躍が特に期待される若手研究者に対して、毎年6名以内に授与されています。堀毛悟史准教授(現・理学研究科教授)は、金属イオンと有機配位子からなる配位高分子(CP)のガラス化や、プロトン伝導性に優れたCPガラスの開発、ガラスの成形性を活かした燃料電池の高性能化など、CPガラスに関わる成果が評価され、今回の受賞に至りました。

## 陸上競技部の山中駿さんが男子走高跳で優勝しました 囲碁部が全日本二連覇を達成しました

本学では、多くの課外活動学生団体が熱心な活動をしています。昨年度は、課外活動における本学学生の活躍も目立ちました。陸上競技部の山中駿さんは、昨年の天皇賜盃第91回日本学生陸上競技対校選手権大会の男子走高跳で優勝し、「第37回U20日本陸上競技選手権大会」において、男子走高跳で6位入賞を果たすなど、国内の主要大会にて数多くの好成績を収めました。また、囲碁部は、第66回全日本大学囲碁選手権に関西代表として出場し、1998年以来24年ぶりの全日本二連覇を達成しました。また、同部の岩井温子さんは、第58回全日本女子学生本因坊決定戦において優勝しました。



陸上競技部の山中さん



囲碁部の学生たち